

京都府立医科大学 皮膚科学教室のご案内 2018



私たち京都府立医科大学皮膚科は、「一人ひとりが世界に誇れるマイ・ダーマトロジーを確立し、社会に貢献する」という理念があります。

皮膚科は間口が広くて奥が深く、実に魅力的な診療科です。夢を求める若いみなさんとともに、未来の皮膚科を切り拓いて行くことを楽しみにしています！



加藤 則人 教授

ホームページ <http://kpum-dermatology.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/kpum.derma/>



京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学

〒602-8566 京都市上京区梶井町465

電話/FAX 075-251-5586

E-mail hisho@koto.kpu-m.ac.jp (医局)

～ 目次 ～

- 京都府立医科大学皮膚科の理念・特色・教育方針…… 1
- 皮膚科診療スタッフ紹介…… 2
- サブスペシャリティ…… 6
- 研修プログラム…… 7
- 大学病院での主な研修の流れ…… 9
- 2016年度診療実績…… 11
- 新人研修・勉強会…… 12
- 女性医師が働きやすい仕事環境…… 13
- レクリエーション…… 14
- 医局員からのメッセージ…… 15
- 参考資料 関西圏大学病院平成28年度病院指標…… 19

京都府立医科大学皮膚科の 理念・特色・教育方針

～世界に誇れるマイ・ダーマトロジーの確立を目指して～

～理念～

私たち京都府立医科大学皮膚科は、「一人ひとりが世界に誇れるマイ・ダーマトロジーを確立し、社会に貢献する」という理念のもと、それぞれの夢に向かって進みつづける、活気にあふれる皮膚科医の集団です。

～特色～

アレルギー疾患、角化症、自己免疫疾患、色素異常症、悪性腫瘍、熱傷、感染症など、新生児から高齢者まで、身体の表面にあらわれるすべての疾患を対象にして、皮膚はもちろん全身の臓器に関する深く幅広い知識をもとに、高い水準の心優しい医療に全力で取り組んでいます。

教室の伝統であるアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、乾癬、じんま疹などの炎症性皮膚疾患、腫瘍性疾患や難治性皮膚潰瘍などの皮膚外科疾患については、**専門外来を設けて高度かつ先進的な診療**を行っており、各地から多数の紹介患者があります。

当教室で研鑽を積んだ医師が皮膚科の常勤医として勤務する関連病院は、京都府、滋賀県、大阪府および兵庫県に20以上あります。これまでに当教室に在籍した医師の同門会である橘蔭会には約250名の会員がいますが、それぞれが京都を中心に全国で皮膚疾患の診療に重要な役割を担っており、病診・病病連携、症例検討や勉強会を通じて、たがいに向上を図っています。

～教育方針～

問題の本質を見極めて最善の医療を行える心優しい皮膚科医を育て、互いに高め合うことを目指して、短時間に効率よく研修できるよう、**それぞれの分野のエキスパートたちによるやさしく熱意にあふれた指導、病棟チーム制、定期的に行われる種々のレクチャーなどの研修システム**を整えています。また、診療現場で生まれた疑問を解決して臨床に還元するため、これらの疾患の病態の解明と新たな治療法の開発のための研究を遂行しています。

☆ 皮膚科診療スタッフ紹介 ☆



教授
KATOH, Norito
加藤 則人

専門分野 アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などのアレルギー性皮膚疾患、乾癬
趣味 阪神タイガースに関する情報収集
専門医等 日本皮膚科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医

外科医に憧れて医学部に入り、一人ひとりの患者の病態を理解して検査や治療を考える内科的な思考過程の面白さに目覚め、それらを両立できそうな皮膚科を（大きな不安を抱えながら）選びました。それから約30年、皮膚科医になって本当によかったと実感しています。一人ひとりの患者さんの問題の本質を見極めて解決を目指す、心優しい医療を心掛けています。



准教授
MASUDA, Koji
益田 浩司

専門分野 蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、アレルギー性皮膚疾患、乾癬
主な所属学会 日本皮膚科学会、日本研究皮膚科学会、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会（評議員）、日本乾癬学会、日本アレルギー学会
資格 皮膚科専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医

皮膚科では内科・外科・病理と幅広い分野に関わることができます。私は診断や治療の成果が一目でわかるころがおもしろいと思い皮膚科を選びました。その後蕁麻疹の専門外来をはじめから、即時型アレルギーの検査を希望される方が徐々に紹介されるようになり、今では日々原因究明のため皮膚テストを繰り返しています。皮膚アレルギー検査の数は全国トップクラスです。

☆ 皮膚科診療スタッフ紹介 ☆

講師

ASAI, Jun

浅井 純



専門分野 皮膚悪性腫瘍、皮膚潰瘍、肉芽腫、皮膚病理
趣味 育児
主な所属学会 日本皮膚科学会、皮膚悪性腫瘍学会（評議員）、
皮膚外科学会（評議員）、皮膚病理組織学会（理事）、
日本研究皮膚科学会（評議員）
資格 皮膚科専門医・指導医、皮膚悪性腫瘍指導専門医
その他 皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン委員
創傷熱傷褥瘡診療ガイドライン委員
ベーチエット病皮膚病変診療ガイドライン委員

主に創傷治癒・皮膚悪性腫瘍といった皮膚外科領域をサブスペシャリティとし、小森学内講師と共に診療にあたっております。また臨床だけでなく基礎研究にも精力的に取り組み、臨床の現場で感じた疑問の解明や新しい治療の開発を大学院生と一緒にしています。そして研究で培った知識を臨床に生かし、より良い医療を患者さんに提供することを目指して日々精進しています。皮膚外科の臨床（そして研究）に興味のある方、ぜひ京都府立医大皮膚科皮膚外科チームの見学にきてみてください！

講師

MINEOKA, Risa

峠岡 理沙



専門分野 アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などのアレルギー性皮膚疾患、薬疹
資格 皮膚科専門医、日本アレルギー学会専門医

皮膚は体の表面をおおう臓器であり、皮膚疾患の患者さんは痒さや痛みなどの症状だけでなく、見た目です辛い経験をされることもあり、皮膚疾患は様々な悩みで苦しまれる疾患です。そのような患者さんのために少しでも役に立てる医師になりたいと考え、皮膚科医になることを選択しました。

女性医師は出産・育児等のライフイベントで思うように仕事が進まないことが少なくありません。私は、先輩から頂いた言葉「何もしなければ全く前進しない。0.1でも0.01でもできることをしていけば、きっと花開くことができる。」を信じて、これまで頑張ってきました。一緒に頑張りましょう。

☆ 皮膚科診療スタッフ紹介 ☆



学内講師
KOMORI, Satoshi
小森 敏史

専門分野 皮膚潰瘍、皮膚腫瘍、フットケア
趣味 靴磨き
主な所属学会 日本皮膚科学会、皮膚悪性腫瘍学会、
皮膚外科学会、日本下肢救済・足病学会
資格 皮膚科専門医、創傷熱傷褥瘡診療ガイドライン
策定委員

主に重症下肢虚血などに伴う潰瘍・皮膚悪性腫瘍といった皮膚外科領域をサブスペシャリティとし、浅井講師と共に診療にあたっています。下肢の潰瘍については皮膚科医だけでなく、循環器内科医、整形外科医、理学療法士などそれぞれの得意分野をいかした連携を行い、潰瘍治療を行っています。今後は臨床研究なども行っていきたいと思っています。皮膚潰瘍や皮膚悪性腫瘍の外科的治療、オプジーボなどの新薬を用いた癌に対する全身療法まで興味がある方はぜひ、一度見学にきてください。



学内講師
WADA, Makoto
和田 誠

専門分野 乾癬、乾癬性関節炎、小児の乾癬、若年性
特発性関節炎
主な所属学会 日本皮膚科学会、日本研究皮膚科学会、日
本乾癬学会、日本癌学会
資格 皮膚科専門医

臨床では大人と子供の乾癬、特に乾癬性関節炎を中心に診療を行っており、他科との共同研究も進めています。基礎研究では血管肉腫や悪性黒色腫に対する分子標的薬の研究を大学院生と行っています。若手の先生とディスカッションを通じて思考力と考察力を高めて臨床に生かせるように努めています。一緒に楽しく働きましょう！

☆ 皮膚科診療スタッフ紹介 ☆



助教

KANEHISA, Fuminao

金久 史尚

専門分野 皮膚科一般

趣味 読書（推理小説）

主な所属学会 日本皮膚科学会、皮膚悪性腫瘍学会、
日本乾癬学会

資格 皮膚科専門医

皮膚科全般を好き嫌いなく診させていただいております。どちらかというと実臨床を頑張っています。生物学的製剤など毎年のように治療がup dateされている乾癬については、加藤教授や益田講師と共に診療しております。治療が多様化してくると、うまく使いこなさないといけませんし、必ずしも毎回うまくいくとは限りません。個々の患者さんに合わせた診療を心がけています。

皮膚科の面白さといえば、臨床症状などのマクロと、病理組織などのミクロとがリンクしていくことも挙げられます。皮膚科8年経ちますが、まだまだ興味がつきません。当科では、上級医の先生にも声をかけやすい環境にあります。勤務しているなかで意外とこれは大きいかもしれません。また、年中医局内には最新のお菓子が常備されておりエネルギー補給に最適です。一度当院での研修も検討頂けると幸いです。



助教

OHSHTA, Akifumi

大下 彰史

専門分野 皮膚科一般

趣味 漫画、サッカー

主な所属学会 日本皮膚科学会

資格 皮膚科専門医

私は生まれた頃よりアトピー性皮膚炎があり、軟膏外用は私の日課でありました。自然と皮膚科にひかれ、毎日新しい発見に出会える皮膚科に入り、本当に良かったと思います。

皮膚科は腫瘍、アレルギーをはじめ様々な分野を経験できます。他科の先生方と関わる機会も多く、皮疹から診断がついた時の喜びは格別です。手術や検査など幅広くこなせることが、皮膚科の面白さと感じております。アトピーに興味があった私は、今ではメス(手術)にも興味湧いております。穏やかな先生が多いことも皮膚科の特徴だと思います。皆さん、一緒に皮膚科で働きませんか！

☆サブスペシャリティ☆

一人ひとりが世界に誇れるマイ・ダーマトロジーを確立することを理念とし、教授以下スタッフ全員がそれぞれのサブスペシャリティを持ち、診療・教育を行っています。

内科系

アレルギー性皮膚疾患
(アトピー性皮膚炎・接触皮膚炎・じんま疹・薬疹)

加藤則人
(アトピー性皮膚炎ガイドライン委員長)
(日本アレルギー学会指導医)

益田浩司
(日本アレルギー学会指導医)
(じんましん診療ガイドライン委員)

峠岡理沙
(日本アレルギー学会専門医)

乾癬

加藤則人
(乾癬性関節炎研究班)
和田誠

益田浩司
金久史尚

膠原病・血管炎・
自己免疫性水疱症

浅井純
(ベーチェット病診療ガイドライン委員)
(創傷熱傷ガイドライン・膠原病・血管炎担当)
金久史尚

外科系

皮膚腫瘍

浅井純
(皮膚悪性腫瘍指導専門医)
(皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン委員)
小森敏史
大下彰史

皮膚潰瘍

浅井純
(創傷熱傷ガイドライン委員)
小森敏史
(創傷熱傷ガイドライン委員)
大下彰史

皮膚病理

加藤則人
浅井純
(日本皮膚病理組織学会理事)

基礎研究

加藤則人
(日本研究皮膚科学会理事)
浅井純
(日本研究皮膚科学会評議員)
峠岡理沙
(日本研究皮膚科学会評議員)

それぞれの分野のエキスパートによる丁寧な指導のもと、サブスペシャリティの確立を目指します。

☆ 研修プログラム ☆

A. 教育ポリシー：京都府立医科大学皮膚科では、研修を終了し所定の試験に合格した段階で、**皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得すること**を目標としています。

B. プログラムの概要：京都府立医科大学附属病院皮膚科を研修基幹施設として、京都市立病院皮膚科、京都第一赤十字病院皮膚科、京都第二赤十字病院皮膚科、大津市民病院皮膚科、福知山市民病院、JCHO神戸中央病院、済生会滋賀県病院、近江八幡市立総合医療センターを研修連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムです。各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定しています。

研修基幹施設

京都府立医科大学附属病院皮膚科

研修連携施設

京都市立病院皮膚科
病床数 (548床)
常勤皮膚科医数 4名

京都第一赤十字病院皮膚科
病床数 (612床)
常勤皮膚科医数 4名

JCHO神戸中央病院皮膚科
病床数 (424床)
常勤皮膚科医数 2名

京都第二赤十字病院皮膚科
病床数 (609床)
常勤皮膚科医数 4名

福知山市民病院皮膚科
病床数 (354床)
常勤皮膚科医数 2名

大津市民病院皮膚科
病床数 (445床)
常勤皮膚科医数 3名

近江八幡市立総合医療センター皮膚科
病床数 (407床)
常勤皮膚科医数 2名

研修準連携施設

京都府立医科大学附属病院形成外科

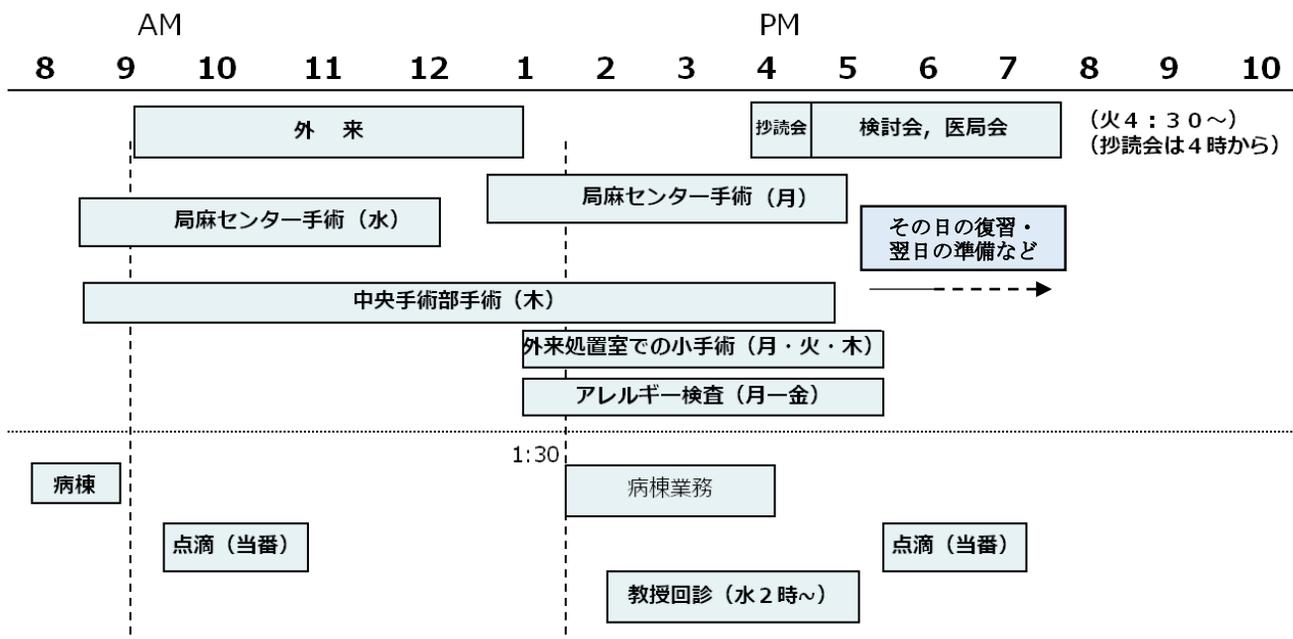
C. 研修コース：本研修プログラムでは、専攻医のニーズや希望に合わせて以下のa～hの研修コースにより皮膚科専門医を育成します。（ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得ます。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により一部変更となる可能性があります。）

コース	研修1年目 (卒後3年目)	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	基幹	基幹	連携	連携
d	基幹	形成外科・ 基幹	連携	連携	基幹
e	基幹	連携	連携	基幹	基幹
f	基幹	連携	大学院 (臨床)	大学院 (研究)	大学院 (研究)
g	連携	基幹	大学院 (臨床)	大学院 (研究)	大学院 (研究)
h	基幹	連携	連携	連携	準基幹

- a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として2年ごとで異動するが、諸事情により1年程度での変更もあり得る。
- b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c：研修連携施設から研修を開始するコース。
- d：研修2年目に大学形成外科に3ヶ月研修し、皮膚外科医を目指すコース。
- e：研修2年目から2年間研修連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、4年目から基幹施設で研修するコース。
- f：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- g：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- h：連携施設および準連携施設で重点的に研修し、地域医療の最前線で診療能力を研修するコース。

☆ 大学病院での主な研修の流れ ☆

＜ 新入医局員 タイムスケジュール ＞



	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来/ 手術	外来/ 手術	外来	当直・処置 番による病 棟・救急対 応	
午後	病棟/ 手術	検査 加アルブ 抄読会	病棟・ 回診	病棟/ 手術	病棟		

外来：初診患者の問診をとった後、上級医の診察に陪席し、診断・治療に至る過程を経験していただきます。1年目の途中、もしくは2年目より再診外来を担当し、同一患者さんを継続して診察する経験を積んでいただきます。

病棟：外科系2チーム、内科系1チームの計3チームによる診療を行っております。各チームにはそれぞれの分野のエキスパートが指導医としてチームに参加します。専攻医は3つのチームを数ヶ月ごとにローテーションしていただきます。チーム制導入により、患者さんにとってはより専門的で高度な医療を提供できるようになるとともに、専攻医にとっても一定期間集中して同じ疾患領域の症例をみることにより疾患に対する知識や疾患特異的な診療スキルを確実に身につけることができます。（次ページ参照）

手術：中央手術部、局所麻酔センターでの手術に指導医と一緒に入っていただきます。初年度から皮膚切開、縫合を中心にどんどん実践をこなし、5年目には皮膚悪性腫瘍切除術や植皮術といった皮膚科専門医取得に必要な皮膚外科スキルを習得していただきます。

症例検討会：毎週火曜日16時30分より、症例検討会を行います。前週に診察した症例の臨床写真を供覧しながら、診断、検査、治療についてディスカッションを行います。症例検討会の後には病理検討会を行い、診断に難渋する症例や珍しい症例を中心にディスカッションを行います。

～研修システム(入院診療)～

当大学では次のようなチーム制で入院での患者診療を行っています。

Aチーム
悪性腫瘍
(腫瘍の切除や抗癌剤による全身療法)

Bチーム
皮膚潰瘍・感染
(NPWTなどを用いた潰瘍治療)

Cチーム
皮膚内科
(アレルギー性皮膚疾患、水疱症など)

各疾患のエキスパートによるサポート

チーム別のミーティング

チームリーダー

レジデント

週に1度は入院患者についてのチームミーティングをおこない、治療方針を確認



- ◆ 各チームにそれぞれ3-4人の皮膚医が所属
- ◆ それぞれのチームを各疾患のエキスパートが指導医としてサポート
- ◆ 若手皮膚科医はそれぞれのチームをローテートし、皮膚科専門医取得に必要な知識と経験を得ることができます。

☆2016年度診療実績☆

～入院実績～

- ◆病床数 20床
- ◆年間新規入院患者数 539 例
- ◆入院患者疾患内訳 (症例の重複あり)

外科系：悪性黒色腫 85例、乳房外パジェット病 44例、有棘細胞癌 (Bowen病、付属器癌含む) 103例、基底細胞癌 59例、悪性軟部腫瘍 22例、良性腫瘍 38例、細菌感染症 26例、熱傷・潰瘍 40例 など

内科系：アレルギー・薬疹 38例、水疱症 12例、アトピー性皮膚炎 11例、膠原病・血管炎 5例、リンパ腫 10例、円形脱毛症 9例、光線過敏症 4例、乏汗症 4例 など

～外来実績～

- ◆外来延べ患者数 29,766 例/年 (約122例/日)
- ◆患者紹介率 75.4%

～手術実績～

- ◆手術件数 (外来処置室での小手術は除く)
 - 総手術件数 330件
 - 中央手術部手術件数 111件
 - 局所麻酔センター手術件数 219件

～外来検査実績～

- ◆アレルギー検査症例数 243例
(プリックテスト 115例、パッチテスト 128例)

皮膚科専門医取得に十分な症例の数と種類が経験できます！

☆新人研修・勉強会☆

京都府立医大皮膚科では、優れた皮膚科医を育成するために上級医・指導医による研修・勉強会を定期的に行っています。

基礎編（4月～6月）：

皮膚科医になったすぐに必要となる基礎的な知識を集中的にレクチャーします。（週2-3回程度）

- 例）・皮疹のみかた、予診の取り方
・皮膚科軟膏療法の基礎
・皮膚科救急疾患
・アレルギー検査
・皮膚生検・小手術の基本 など

応用編（7月～）

主に各論を中心に、それぞれの疾患のエキスパートが疾患概念・必要な検査法・治療法・最新の知見などをわかりやすくレクチャーします。月に1～2回程度で不定期に行っています。

- 例）アトピー性皮膚炎、乾癬、皮膚感染症、皮膚腫瘍、蕁麻疹、接触皮膚炎、水疱症、血管炎、光線過敏症、リンパ腫、毛髪疾患 など

皮膚病理勉強会：

皮膚病理は皮膚科の中で重要な分野ですが、なかなか取っつきにくい分野でもあります。京都府立医大皮膚科では、難解と思われがちな皮膚病理をわかりやすく丁寧に指導しています。（月1開催）

（2016年度の例）

1. 皮膚病理の基礎知識・用語について
2. 炎症性皮膚疾患：角層から顆粒層の異常を主とする疾患
3. 炎症性皮膚疾患：有棘層の異常を主とする疾患
4. 炎症性皮膚疾患：表皮真皮境界部の異常を主とする疾患
5. 炎症性皮膚疾患：真皮の異常を主とする疾患
6. 炎症性皮膚疾患：皮下脂肪織・筋膜・筋肉の異常を主とする疾患
7. 炎症性皮膚疾患：付属器の異常を主とする疾患
8. 腫瘍性疾患：良性上皮系腫瘍
9. 腫瘍性疾患：悪性上皮系腫瘍
10. 腫瘍性疾患：付属器系腫瘍
11. 腫瘍性疾患：間葉系腫瘍
12. 腫瘍性疾患：リンパ増殖性疾患

☆ 女性医師が働きやすい仕事環境 ☆

京都府立医大皮膚科では、働く女性医師のキャリアアップを全面的に支援し、それぞれの家庭環境に合わせた研修プランを提案いたします。

大学病院での臨床研修

- ・ 外来番制度：事情により病棟業務が困難な場合に、主に外来業務を中心に勤務します。外来手術やアレルギー検査などの特殊検査を行います。
- ・ 特定専攻医制度：専攻医の短時間勤務制度

関連病院での臨床研修

- ・ 多くの関連病院があり、勤務地や勤務条件などの選択肢が広がります。
- ・ 病院により、院内保育園の設置（京都市立病院、第二赤十字病院、田辺中央病院、神戸中央病院、綾部市民病院など）や育児による短時間勤務の制度などの子育て支援があります。

京都府立医科大学皮膚科学教室では多くの女性医師が、妊娠、出産、育児などの多様なライフスタイルに応じて、臨床や研究に従事し、活躍しています

研究支援

- ・ 研究支援員雇用制度：育児、出産、介護、通院等と両立させながら研究活動を行う女性医師を補助する研究支援員を雇用する制度
- ・ フューチャー・ステップ研究員制度：出産、育児、介護等により、常勤での勤務が困難な場合に、短時間勤務で主に研究を行う制度

大学病院での子育て支援

- ・ 病児保育室「こがも」
- ・ 学内保育園「くすのき」



京都府立医科大学男女共同参画推進センターによる
女性医学研究者支援と子育て支援

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/>

☆レクリエーション☆

京都府立医科大学皮膚科学教室では、京都の四季折々を堪能できる様々なレクリエーションを企画し、親睦を深めております。



新入医局員歓迎ボウリング大会



加藤教授の誕生日お祝い☆



ゴルフコンペ

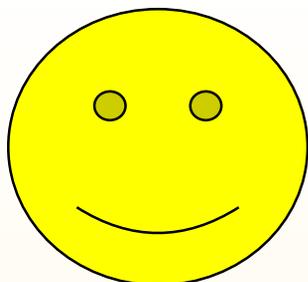


夏の納涼会。鴨川河川敷で川床料理を堪能！



☆新年会☆

医局員からのメッセージ



平成26年度前期専攻医 (現高知大学皮膚科専攻医)

氏名 西本 陽加
卒業年度 平成24年
出身大学 関西医大

私が京都府立医大の医局を選んだ大きな理由は、研修医時代にローテートさせていただいたときに手厚いご指導をうけたこと、医局の雰囲気がとてもよかった所です。4ヶ月間、楽しくローテートさせて頂き、そのまま入局を決めました。入局後も変わらず、さらなる手厚いご指導を受けております。

ここでは入院患者さんの診察をチーム制で行っています。私たち専攻医は①外科系A(悪性腫瘍) ②外科系B(創傷治癒・感染症) ③内科系と4ヶ月ずつ、ローテーションして担当するので、万遍なく様々な症例を集中して経験することができます。外来も毎日あり、初診を上級医と診察し、大学ならではの重症例もたくさん経験できるので、専攻医時代を過ごすには最適の環境です。

いくつか他の皮膚科も見学にいきましたが、手術症例の豊富さは群を抜いており、外科系に興味のある方にはぜひおすすめです。外科系だけでなく、アレルギーを専門にされている先生方も沢山おられるので、どの専門分野に興味があるか、悩んでおられる方も、ゆっくり考えていくことができます。症例もバラエティに富み、学会発表の機会にも恵まれています。日々沢山の経験を積ませて頂き、忙しさの中にも充実した日々を過ごさせて頂いています。興味がある方はまず見学に来てください。皮膚科一同お待ちしております！



平成26年度後期専攻医 (現京都第二赤十字病院専攻医)

氏名 岡村 玲子
卒業年度 平成21年
出身大学 神戸大

・入局を決めた理由

皮膚科の疾患、治療を内科系、外科系ともに学びたく、当医局ではどちらにも専門性の高い先生方がおられるのでその希望がかなうと考えました。また、入局時には2児の母でしたが、当医局には子供を持ちながらも上手く仕事と家庭の両立をされている先生方がたくさんおられるので、それらの先生方をロールモデルに自分も頑張ろうと思えたのも大きな理由です。

・現在の生活

日々めまぐるしい生活に追われながらも、指導医の先生方に丁寧に指導していただき、充実した日々を送っています。

・入局を考えている方へのメッセージ

皮膚科の診療は幅広く、学ぶことが沢山あり、面白いです。私のように2児の母となつてからの皮膚科研修のスタートでも対応していただける懐の深い医局ですので、ライフステージが変化しても働き続けられることも当医局の魅力だと思います。



平成26年度前期専攻医

氏名 北村 佳美
卒業年度 平成24年
出身大学 京都府立医大

私が皮膚科に進むことを決めたのは研修医2年目の8月でした。

それはある日突然やってきました。

私は研修医2年目の8月に1か月だけ初めて皮膚科をローテートしました。7月までは、内科か精神科で進路を考えており、どうも決め手がなく、毎日ああでもこうでもないと思っていました。なんとなく選んだ皮膚科1か月でした。

「Cチーム（アレルギー・内科班）がいいです！」と希望したものの、希望が重なり、あみだくじでなってしまったAチーム（腫瘍班：その当時は全く興味なし、手術はポリクリ以来、縫合もできませんでした）。「がーん、1か月どうやって生きていこう」と心配したのを覚えています。

しかし、始まってみると、指導医の先生が毎日、外来ではいろいろな皮膚疾患について、病棟では処置の方法について、手術では手技について、何も知らない私に熱心に教えてくださいました。それが非常におもしろくて、始まって二週間で、迷うことなく皮膚科に入局を決めてしまいました。医局の先生方を含め、周りに非常に驚かれたのを覚えています。

二週間で決めた皮膚科ですが、約1年がたった今でもその選択をしてよかったと日々思います。

外勤先で自分の出した塗り薬で、きれいに治って、感謝された時が一番やりがいを感じます。ありふれた疾患で、特にすごいことをしているわけでもないのですが、やはりすごくうれしいものです。

私は結局1か月しか皮膚科をローテートしないまま皮膚科に入局し、この1年間、本当にわからないことだらけでした。しかし、そんな私を医局の先生方はいつも助けてくださいました。困っているときに助けてもらえなかったことは一度もありません。だから、前期専攻医という、一般的には一番しんどいであろう時期をこんなに毎日元気に明るくやってこられたのだと思います。もうすぐ二年目となり、仕事内容には慣れてきたので、これからは、勉強をもっとがんばらなければならない時期だと感じています。

皮膚科を少しでも考えている皆さん、是非一緒に働きましょう。まずは見学からお待ちしています。



平成26年度前期専攻医

氏名 中江 真
卒業年度 平成24年
出身大学 京都府立医大

私が皮膚科学を学ぶ決め手となったのは「治療の効果が本人にも他人にも分かりやすいこと」と「外因的な病気と内因的な病気が混じり合っていること」といった点にとっても面白さを感じたからです。

前者に関しては、治療がうまくいった時や腫瘍に対する切除術や外用処置、化学療法、放射線治療に対して患者さんやご家族の満足度が非常に高く感謝していただけることにやりがいを感じながら働いております。

後者に関しては、皮膚という臓器の性質上、『疾患』が外界からの刺激（薬剤、紫外線、ウイルス、熱、外傷、虫刺症など）による反応なのか、内因的な要素（自己免疫、糖尿病、血管炎、腫瘍など）に伴うものなのか、その両方なのか、といった他の科とは違ったスタート地点から問診や視診、触診、検査をおこない診断をすすめていきます。一見、患者さんの主訴と現症から外傷性の病変に見えても経過観察や検査を進める上で内臓病変を伴う病気であることが判明したり、自己判断での処置による修飾も伴って教科書的な所見とは全く異なることがあったり、と様々な要素を考慮した上で「今、何が起きているのか」を考えながら治療することを日々楽しんでいきます。

皮膚科は狭い範囲を診る科と考えられがちですが、皮膚科特有の疾患以外にも「何が来るか分からない面白さ」もあり、私は救急診療科に近い「診断への入り口」になる科だと思っています。興味があれば是非見学に来ていただければと思います。お待ちしております。



平成26年度フューチャー・ステップ研究員

氏名 中村 直美
卒業年度 平成16年
出身大学 京都府立医大

・皮膚科医になったきっかけ

内科や小児科なども悩んでいましたが、皮膚科で扱う疾患は内科、外科領域と多岐にわたり、患者さんも赤ちゃんからお年寄りの方までおられ、とても幅広い科であることと、病気が目で見てわかるので、治ったときに患者さんと喜びを分かち合えることに魅力を感じ、皮膚科を選びました。

・皮膚科医になって良かったこと

一般的な皮膚疾患に加え、自分の興味のあるアレルギー疾患などの専門分野もさらに深く勉強することができ、専門性を身につけて患者さんを治療し、よくなった姿をみると大変嬉しく思います。また、基礎研究にも従事することができ、論理的な思考回路で物事に取り組むことができるようになったことは、今後の医師生活に必ず役立つと思います。女性医師が多く、出産、育児などの相談がしやすい環境であることも大変有難いです。

・現状について

現在は3人の子供を育てながら、京都府立医科大学男女共同参画推進センターの女性研究者支援制度である、フューチャー・ステップ研究員として勤務しています。この制度は、出産・育児等により、研究、教育、又は診療を継続して行うことが困難な場合に短時間の勤務形態で、主に研究業務を行う制度で、この制度のお陰で大学院卒業後も出産や育児で研究や臨床を中断することなく、行うことができます。

・皮膚科を考えている研修医に向けてのコメント

皮膚科学はとても幅広く、奥深い分野なので、臨床や研究でも自分の興味があることが必ず見つかると思います。仕事と家庭、子育てなどと両立し、一生かけて仕事ができ、興味のつきない素晴らしい科だと思います。



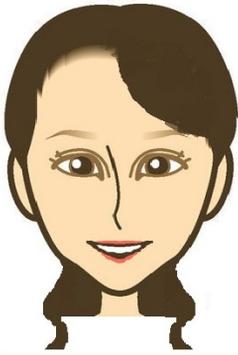
平成26年度大学院2年生

氏名 在田 貴裕
卒業年度 平成23年
出身大学 大阪医大

今から6年前、まだピチピチの研修医であった僕は、将来消化器内科医になろうと思っていました。研修する診療科も内科メインで選択し、正直皮膚科には興味がありませんでした。ただ、僕の父親が皮膚科医であるため、一応親の仕事くらいは見ておくか・・・と軽い気持ちで当科を研修医2年目の夏にローテートしました。当初は皮膚疾患についてほぼ無知な状態で、右も左も分からない状態でした。なんとか上級医についていこうと日々教科書の写真と見比べながら多くの症例を勉強しているうちに、いつのまにか皮膚科に魅了されていました。医局の先生方も優しくて熱心な先生ばかりであったので、最後は迷う事なく当科に入局しました。個人的に皮膚科の魅力は、内科的な分野から外科的な分野まで非常に多岐にわたる事、手技がたくさんある事、疾患数が膨大なので毎日新しい発見があり全然飽きない事かと思っています。今でも皮膚科医になって本当によかったと思っています。そして現在は大学院生として、皮膚悪性腫瘍の治療をメインに研究を行い、研究と臨床の日々を過ごしています。

さて、当科の魅力についてですが、症例数が非常に多いので経験をたくさん積める事、内科～外科的分野まで様々な分野でのエキスパートが多いので専門的にしっかりと指導を受けられる事、入院患者さんはチーム制で担当するのでお互いに助け合いながら症例を共有できる事、臨床にしても研究にしても自分のしたい事に対して寛容である事などが挙げられると思います。

皮膚科に少しでも興味のある学生さんや研修医のみなさんはもちろん、今は興味のない方もぜひ一度見学やローテートしてみてください！みなさんと一緒にお仕事ができる事を楽しみにしております！



平成26年度大学院4年生

(2017年度より留学予定)

氏名 水谷 浩美

卒業年度 平成18年

出身大学 京都府立医大

☆きっかけ

私は女医ですが、入局前に結婚もしており、漠然と、家庭と両立できる科でないと長く続けられない、けど科として興味ももてるところがいいと考えていました。

研修医2年目で皮膚科を2か月間府立医大皮膚科をローテートし、重症のステーブンスジョンソン症候群やビタミンB2のアナフィラキシーなど興味深い症例を幾例か経験しました。また、全く軽微な症例でしたが、頭部の小腫瘍で切除してみたら珍しい組織であったために症例報告もの（日本語ですが）、という症例も経験しました。これらから強く感じたのが、皮膚科の扱う疾患は非常に幅広く興味深いこと、注意していればささいな症状でも珍しい疾患が隠れていて、症例報告もできる（論文が書ける）などの皮膚科の持つ可能性とその魅力でした。珍しい症例や病態に対して上級医の先生方の感覚が鋭いと思いました。それでいて、医局の雰囲気は全くがつつ、ぎすぎすしていないのが府立のいいところだと思います。

また、皮膚科医は病理もある程度できなければなりません。皮膚科医は診断のツールとしてしばしば皮膚生検を行います。採取した組織の診断は病理医の先生方もつけて下さいますが、最終的には皮膚科医が自分でみて診断します。その頻度は他科に比べてだんとつ多く（他の臓器に比べて生検しやすい部位であるからであると思いますが）、入局当時は病理はハードルに感じましたが、今は肉眼でみえる症状と病理組織像がリンクするときにおもしろさを感じます。

☆皮膚科になって良かったこと

・入局時の動機はそのまま実現しています。続けやすい。
続けやすいのは医局事情によると思いますが、府立医大皮膚科は続けやすいと思います。それは、医局の先生方の理解と医局員の質、数に恵まれていることなどが理由としてあげられるでしょうか。

・扱う対象疾患はやはり興味深い。
どの科でもそうなのかもしれませんが、日々はcommon diseaseの対処に追われますが、中にこれは?! という症例がひそんでいます。また将来、大学院で研究をしようとする際に、疾患の幅が広いのはメリットかと思います。

・留学経験のある先生が多数おられる。
医局が医局員を留学させることに積極的であることも魅力だと思います。私は夫の留学に伴い海外転出することとなりましたが、医局からも快諾、推薦いただき、渡豪先で臨床研究を行えることになりました。経験のある先生方と日々お話できることでやる気と希望をもらいました。同時期にもう一人海外留学する医局員もおりますし、このようなことができるのも医局の先生方の理解と医局員の質、数に恵まれているためだと思います。

☆皮膚科を考えている研修医に向けて

皮膚科を考えている皆さん、とくに女医の皆さん。
結婚も、子供も、臨床能力も、皮膚科専門医も、大学院も、とあれこれ考えると、いかに続けやすいといっても、やはり周りのサポートは重要です。府立医大皮膚科は個人の頑張りとニーズに応じていろいろな働き方を提案してくれますので、恵まれた環境の中でできる限り個人の力を伸ばして行っていただきたいと思います。

★ 参考資料 ★

関西圏主要大学病院比較

- ・ 平成28年度皮膚科主要手術別患者数
(各大学病院HPより抜粋)
- ・ 平成28年度診断群分類別患者数
(各大学病院HPより抜粋)

平成28年度皮膚科主要手術別患者数比較 (各大学病院HPより抜粋)

京都府立医科大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	150	1.13	7.76	2.00	73.03	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	15	0.60	4.73	0.00	59.47	
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上6cm未満）	11	0.36	3.91	0.00	46.18	
K013-21	全層植皮術（25cm ² 未満）	11	5.09	8.64	9.09	74.27	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	-	-	-	-	-	

京都大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	68	3.88	15.41	1.47%	68.99	
K016	動脈（皮）弁術，筋（皮）弁術	-	-	-	-	-	
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	-	-	-	-	-	
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上12cm未満）	-	-	-	-	-	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	-	-	-	-	-	

滋賀医科大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	89	1.65	10.82	0%	75.81	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	23	1.13	2.83	0%	43.30	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	21	1.05	2.48	0%	44.24	
K0152	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25～100cm ² 未満）	10	1.10	12.60	0%	75.20	
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上12cm未満）	-	-	-	-	-	

平成28年度皮膚科主要手術別患者数比較 (各大学病院HPより抜粋)

神戸大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	91	1.44	8.41	0	73.48
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径2センチメートル以上4センチメートル未満	15	2.53	4.53	0	51.13
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径4センチメートル以上	13	1.31	7	0	57.08
K0022	デブリードマン 100平方センチメートル以上3,000平方センチメートル未満	-	-	-	-	-
K0021	デブリードマン 100平方センチメートル未満	-	-	-	-	-

大阪市立大学

皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	76	1.50	10.01	3.95	73.62	
K0152	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25～100cm ² 未満）	10	1.00	13.60	0.00	70.80	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	-	-	-	-	-	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	-	-	-	-	-	
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上12cm未満）	-	-	-	-	-	

大阪大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	28人	6.64日	12.29日	3.23%	67.79歳	
K013-21	全層植皮術（25cm ² 未満）	-	-	-	-	-	
K0071	皮膚悪性腫瘍切除術（広汎切除）	-	-	-	-	-	
K0311	四肢・軀体軟部悪性腫瘍手術（肩，上腕，前腕，大腿，下腿，軀体）	-	-	-	-	-	
K013-22	全層植皮術（25cm ² 以上100cm ² 未満）	-	-	-	-	-	

平成28年度皮膚科主要手術別患者数比較 (各大学病院HPより抜粋)

和歌山県立医科大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	84	2.02	9.08	2.38	73.88	
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径6cm以上12cm未満)	11	1.36	5.55	0.00	52.36	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	10	13.30	2.50	0.00	43.60	
K0131	分層植皮術(25cm ² 未満)	10	5.70	11.70	0.00	64.90	
K0152	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術(25~100cm ² 未満)	10	1.90	6.40	0.00	57.70	

奈良県立医科大学

■皮膚科・形成外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	37	1.00	8.89	2.70	70.95	
K0022	デブリードマン(100cm ² 以上3000cm ² 未満)	10	1.60	35.50	40.00	68.50	
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径6cm以上12cm未満)	10	0.60	5.40	0.00	48.20	
K227	眼窩骨折観血の手術(眼窩プローアウト骨折手術を含む)	10	1.00	3.30	0.00	28.00	

兵庫医科大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6171	下肢静脈瘤手術(抜去切除術)	47人	1.0日	1.6日	0.0%	65.3歳	○
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	46人	1.0日	7.3日	2.2%	71.6歳	○ ○
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	11人	1.0日	2.3日	0.0%	75.4歳	○ ○
K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm未満)	11人	1.0日	1.8日	0.0%	72.9歳	○ ○
K0021	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	-	-	-	-	-	

平成28年度皮膚科主要手術別患者数比較 (各大学病院HPより抜粋)

関西医科大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	13	0.92	3.23	0.00%	77.08
K0021	デブリードマン (100cm ² 未満)	-	-	-	-	-
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

大阪医科大学

皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	41	0.68	4.93	0%	72.15	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) 長径2センチメートル未満	19	0.05	0.95	0%	52.11	
K0052	皮膚皮下腫瘍摘出 露出 長径2~4cm未満	-	0.13	1.00	0%	46.75	
K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3cm未満)	-	0.14	0.86	0%	64.43	
K0062	皮膚皮下腫瘍摘出 露出外 長径3~6cm未満	-	0.40	3.00	0%	57.2	

近畿大学

■皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 (単純切除)	148	1.05	5.59	0.00%	74.30	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2センチメートル未満)	61	1.02	1.21	0.00%	41.56	
K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3センチメートル未満)	23	1.04	1.26	0.00%	44.26	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2センチメートル以上4センチメートル未満)	22	1.00	2.05	0.00%	36.82	
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3センチメートル以上6センチメートル未満)	22	1.00	1.05	0.00%	54.23	

平成28年度診断群分類別患者数*比較 (各大学病院HPより抜粋)

*入院加療を行った疾患のうち、症例数が多かった上位5疾患群

京都府立医科大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称等	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080006xx01x0xx	悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対する手術療法	94	8.11	8.78	1.06	74.34	
080006xx99x3xx	悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対する化学療法・放射線療法など	50	2.54	9.17	0.00	73.92	
080005xx01x0xx	悪性黒腫に対する手術療法	28	8.89	14.87	0.00	66.18	
080007xx010xxx	皮膚良性腫瘍に対する手術療法	26	4.35	4.28	0.00	56.12	
080011xx99xxxx	蜂巣織炎、丹毒等の皮膚感染症	22	9.86	11.97	4.55	63.86	

京都大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080005xx99x2xx	黒色腫 手術なし 処置2__2あり	83	3.51	3.95	0.00%	71.54	
080006xx99x3xx	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外) 手術なし 処置2__3あり	43	3.79	9.17	0.00%	69.56	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外) 皮膚悪性腫瘍切除術等 処置2なし	42	13.12	8.78	0.00%	70.90	
080190xxxxxxxx	脱毛症	23	3.48	3.72	0.00%	37.35	
080005xx01x0xx	黒色腫 皮膚悪性腫瘍切除術等 処置2なし	22	16.91	14.87	0.00%	68.50	

滋賀医科大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外) 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術処置2なし	76	11.91	8.78	0%	77.92	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)等 手術処置1なし	56	5.73	4.28	0%	47.63	
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	38	9.16	8.96	0%	63.16	
080011xx99xxx	急性膿皮症 手術なし	25	10.20	11.97	0%	62.84	
080006xx99x3xx	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外) 手術なし 手術処置2-3あり	17	10.35	9.17	0%	61.82	

平成28年度診断群分類別患者数*比較 (各大学病院HPより抜粋)

*入院加療を行った疾患のうち、症例数が多かった上位5疾患群

神戸大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
080006XX01X0XX	有棘細胞癌等に対して、皮膚悪性腫瘍切除術を実施した症例	61	8.72	8.78	0	74.07
161060XX99X0XX	アナフィラキシーショックや、原因不明のアレルギー等に対して、検査・治療を行った症例	25	6.64	4.19	0	42.04
080080XXXXXXXXXX	痒疹や蕁麻疹に対して、治療を行った症例	24	12.5	6.58	0	34.29
080007XX010XXX	皮膚の良性腫瘍に対して、皮膚・皮下腫瘍摘出術を実施した症例	21	5.33	4.28	0	45.57
080011XX99XXXX	蜂巣炎等の炎症に対して、治療を行った症例	19	11.68	11.97	0	66.84

大阪市立大学

皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
080140xxxxx2xx	炎症性角化症 手術・処置等 2 あり	68	2.81	2.84	0.00	54.88	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	56	11.70	8.78	1.79	75.27	
080020xxxxxxxxxx	带状疱疹	36	8.17	8.96	0.00	66.08	
080190xxxxxxxxxx	脱毛症	36	3.89	3.72	0.00	34.17	
080005xx99x1xx	黒色腫 手術なし 手術・処置等 2 あり	30	6.87	9.98	3.33	66.23	

大阪大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
080090xxxxxxxxxx	紅皮症	18人	17.63日	10.37日	0%	73.83歳	
080110xxxxx0xx	水疱症 手術・処置2なし	16人	25.22日	30.11日	0%	74.38歳	
080005xx01x0xx	黒色腫 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置2なし	16人	18.19日	14.87日	0%	66.19歳	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置2なし	15人	17.67日	8.78日	0%	59.27歳	
11002xxx99x1xx	性器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置 2 あり	14人	4.50日	15.75日	0%	58.29歳	

平成28年度診断群分類別患者数*比較 (各大学病院HPより抜粋)

*入院加療を行った疾患のうち、症例数が多かった上位5疾患群

和歌山県立医科大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等2なし	61	10.95	8.78	1.64	74.39	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等1なし	28	5.82	4.28	0.00	49.64	
080005xx01x0xx	黒色腫 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等2なし	23	13.61	14.87	0.00	69.09	
070560xx99x0xx	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患 手術なし 手術・処置等2なし	20	25.40	17.77	10.00	66.30	
080006xx97x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） その他の手術あり 手術・処置等2なし	11	12.82	10.60	0.00	73.27	

奈良県立医科大学

■皮膚科・形成外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	29	8.55	8.96	0.00	71.14	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等2なし	21	8.00	8.78	0.00	73.86	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等1なし	17	3.65	4.28	0.00	42.29	
080005xx99x1xx	黒色腫 手術なし 手術・処置等2 1あり	16	12.63	9.98	6.25	71.88	
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	14	14.00	11.97	7.14	64.00	

兵庫医科大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数 (自院)	平均在院日 数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外) 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等2なし	38人	7.7日	8.78日	2.6%	73.5歳	○ ○
080140xxxxx2xx	炎症性角化症 手術・処置等22あり	21人	2.0日	284日	0.0%	51.0歳	○
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	16人	3.3日	6.76日	0.0%	68.7歳	○ ○
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	-	-	8.96日	-	-	
080100xxxx0xxx	薬疹、中毒疹 手術・処置等1なし	-	-	11.28日	-	-	

平成28年度診断群分類別患者数*比較 (各大学病院HPより抜粋)

*入院加療を行った疾患のうち、症例数が多かった上位5疾患群

関西医科大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
080020xxxxxxx	带状疱疹	53	8.13	8.96	0.00%	66.17
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	27	10.37	11.97	3.70%	67.00
080100xxxx0xxx	薬疹、中毒疹 手術・処置等1なし	16	13.63	11.28	0.00%	53.33
080140xxxx2xx	炎症性角化症 手術・処置等2あり	13	6.15	2.84	0.00%	61.83
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等2なし	13	5.15	8.78	0.00%	77.08

大阪医科大学

皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080020xxxxxxxx	带状疱疹	59	7.22	8.96	0%	69.53	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等1なし	33	2.06	4.28	0%	53.27	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等2なし	29	5.48	8.78	0%	72.93	
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	19	10.11	11.97	5.26%	65.05	
080100xxxx0xxx	薬疹、中毒疹 手術・処置等1なし	13	15.08	11.28	0%	60.31	

近畿大学

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等	108	6.5	8.8	0.00%	75.4	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等	101	3.2	4.3	0.00%	47.0	
080020xxxxxxxx	带状疱疹	50	9.1	9.0	0.00%	70.0	
080100xxxx0xxx	薬疹、中毒疹	41	16.7	11.3	0.00%	56.6	
080011xx99xxxx	急性膿皮症	30	13.9	12.0	0.00%	59.0	



歴史情緒あふれる古都・京都で
あなたも研修してみませんか？



当教室に興味をお持ちの方へ

- ◆ 質問・問い合わせ・入局希望・見学希望の方は、お気軽に医局長の浅井までご連絡ください。

京都府立医科大学皮膚科

〒602-8566 京都市上京区梶井町465

電話/FAX 075-251-5586 (医局)

E-mail hisho@koto.kpu-m.ac.jp

ホームページ <http://kpum-dermatology.jp/>

facebook <https://www.facebook.com/kpum.derma/>